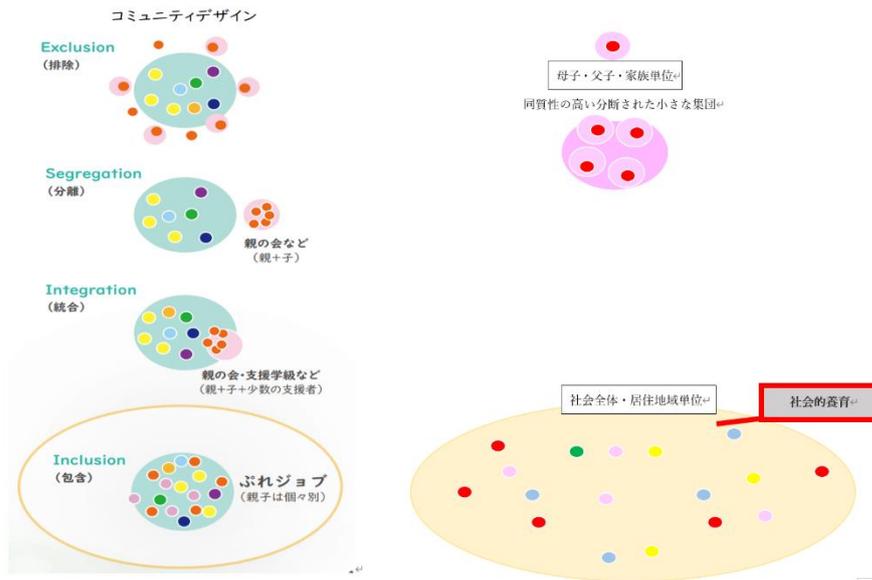


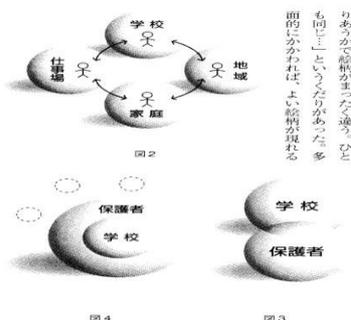
手をつなぐ育成会に若い加入者がいないので、加入したら特典として「ぷれジョブ」もつ  
けますよ、という団体がいくつか過去にはありました。



上の図のように、目的も方法も親の会（生活全体）と当法人（毎週1時間）とは違うのですが、やりながら気が付いていただくことを前提として伝えて、理事会で協議して許可した経過があります。祈りながら実践経過を10年みたところ、いくつかのパターンが起きました。多くは保護者が子離れはできず、むしろ障害者を称賛する人を増やす、青年期以降わが子の居場所づくりが目的となり、本来の「子の時代からの自立準備」をして「青年期には親から離れる」という目的から離れてしまうことのほうが多かったです。

ぷれジョブの1時間、子離れの積み上げという側面をぷれジョブに重要な意味を持っています。並行するのは難しいことを理解されて、方法の利用は止めた保護者の方もいます。ぷれジョブをしていなくても、ぷれジョブの理念に賛同いただき、サポート会員になって引き続き法人を支えていただいているかたもおられます。

既存の組織への年会費は支払うが当法人への年会費は払わない、方法だけ無料で使いたいという申し出に対しては、法人および会員に損害を与える行為となりますので、ぷれジョブの名前と方法を使うことはお断りしています。子どもの自立度（人権感覚）はそのまま親の自立度（人権感覚）だと感じます。



大事なことは、理念を間違えやすいことを自覚することです。

子どもを真ん中にして褒めたたえる活動ではなく、子どもの人権について大人が考えるという態度を毎週振り返ることです。

子どもの自立度はそのまま親の自立度